

## 事業報告

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

### 1. 事業の経過及びその成果

当研究所は、農薬等の残留及び毒性に関する各種試験及び調査研究等を行うことにより、その安全性の確保を図り、もって人の健康の保護及び環境の保全に寄与することを目的として、農薬等の残留性及び毒性に関する各種試験の受託、調査研究、技術及び知識の普及並びに試験及び試験成績についてのコンサルテーションを行っている。さらに、その他研究所の目的を達成するために必要な事業を行うこととしている。

研究所の主な収益源である各種試験の受託と登録申請に係る試験及び試験成績についてのコンサルテーションについては、4.の(1)に本年度及び前年度の件数を比較表示したが、1件ごとに要する期間も規模も異なるため、件数のみでこれらの事業の成果を説明することは困難であり、3.の財産及び損益等これらを総合的に勘案して判断する必要がある。

調査研究については4課題であり、公益目的支出計画対象事業として、4.の(3)に記載した化学部1件及び毒性部3件について実施した。なお、当該公益目的支出計画実施対象事業であるIETセミナーについては、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、昨年につき、本年度も開催を中止した。一方、公益目的支出計画実施対象事業以外に実施した調査研究の成果は附属明細書に記載した。

技術及び知識の普及については、4.の(4)に記載したとおり大学への非常勤講師派遣、大学及び講演会への講師派遣7件、研修生の受入れ3件、見学者の受入れ1件、委員会等への委員派遣23件であり、海外の委員会等への委員派遣を含んでいる。

その他研究所の目的を達成するために必要な事業については、4.の(5)に記載したとおり、事業の継続に必要なリスク管理の遂行に努めた。試験委託者との情報交換会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。また、今後の事業展開に必要な検討課題及び改善事項として、人員体制・業務分担の見直し、国際実験動物ケア評価認証協会(AAALAC International)の認証維持、試験データの品質管理強化及び試験業務の効率化、施設整備計画を着実に実施した。一昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で延期を余儀なくされていた設立50周年記念式典を2023年11月22日開催した。

当期の経常収益は2,478百万円となり、予算額(2,263百万円)に対し約10%増となり予算額は達成した。また、昨年度実績(2,103百万円)比較においても毒性試験及び作物残留性試験等の受託が順調であったことや農薬の再評価制度によるコンサルタント業務が約16%増加したことにより、3.のとおり税引前当期一般正味財産増減額は、229百万円となった。

報告(1)

2. 資金調達等の状況

(1) 資金調達

該当なし

(2) 設備投資

ア. 重要な固定資産の取得

該当なし

イ. 重要な設備の新設、増設等

該当なし

ウ. 重要な固定資産の売却、除却、滅失等

該当なし

3. 2023年度の財産及び損益の状況

(単位：百万円)

区 分	2023 年度	2022 年度
経 常 収 益	2,478	2,125
税引前当期一般正味財産増減額	229	3
当期一般正味財産増減額	229	3
正味財産期末残高	4,130	3,906

注：詳細については「貸借対照表」及び「正味財産増減計算書」参照

4. 主要な事業内容

(1) 農薬等の残留性及び毒性に関する各種試験の受託実施

試験の種類	2023年度	2022年度
A:毒性部	75	85
a;慢毒等、亜急性	18	12
b;繁殖・発生毒性	8	16
c;急性、吸入、免疫	24	23
d;神経毒性	7	1
e;遺伝毒性	11	18
f;メカニズム(その他)	7	15
B:化学部	207	185
a;残留分析	111	70
b;家畜残留(その他)	4	-
c;化学分析等	77	106
d;代謝	15	9
C:翻訳・コンサルテーション	42	47
a;ドシエ、翻訳、コンサルタント等	37	44
b;その他、国請負事業等	5	3
D:委託	24	28
a;毒性試験委託	3	-
b;代謝・分析委託	21	28
合計	348	345

注：当該年度に試験を開始した件数

(2) 国関係委託事業等の実施

ア. 農林水産省

(ア) 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち短期課題解決型研究(臭化メチルの飼料用植物への使用に関する安全性の確保)

(イ) 臭化メチルくん蒸の代替薬剤の飼料作物等に対する安全性の確立委託事業

イ. 国立医薬品食品衛生研究所

(ア) 食品の安全確保推進研究事業(残留農薬規制における国際整合を推進するための研究：食品群の決定に資する農薬の残留指標と手順開発に関する研究)

(イ) 食品中残留農薬等の試験法開発における課題の解決に向けた研究(残留農薬分析に供する生鮮農産品の試料均質性に関する調査業務)

ウ. 国立研究開発法人国立環境研究所

(ア) ウズラ卵内投与試験法の開発に係るプレバリデーション試験業務

## 報告(1)

### (3) 農薬等の残留及び毒性に関する調査研究

#### ア. 調査研究（継続事業：公益目的支出計画実施対象事業）

##### ア) 化学部

① ヒトにおける代謝物プロファイル推定試験系の確立

##### イ) 毒性部

① 毒性試験に用いる実験動物の遺伝学的基盤の整備（ラット/マウスの遺伝学的基盤の整備）：アウトブレット動物に保持される突然変異遺伝子およびステロイドホルモンに対する感受性を修飾する遺伝子群の解析

② 毒性試験に用いる実験動物の遺伝学的基盤の整備（ウサギの遺伝学的基盤の整備）：ウサギの系統差に着目した背景データの蓄積

③ 甲状腺影響を適切に評価するための遺伝学的・栄養学的基盤情報の整備

#### イ. IET セミナー（継続事業：公益目的支出計画実施対象事業）

（創業 50 周年記念式典開催のため中止）

#### ウ. 調査研究の成果(公益目的支出計画実施対象事業外)

「事業報告の附属明細書」10 頁参照

### (4) 農薬等の残留・毒性に関する技術及び知識の普及

#### ア. 大学への非常勤講師派遣

① 東京農工大学農学府「発生学」

② 岐阜薬科大学大学院薬学研究科《特別講義》

「Developmental Neurotoxicology：発達神経毒性学概論」

#### イ. 講演会等への講師派遣等

① 2023.5.12

残留農薬分析国際交流会セミナー

「IUPAC 15<sup>th</sup> ICCPC2023 報告」

② 2023.9.21～22

第 13 回 GLP ベーシック研修

③ 2023.10.26

東京農業大学生命科学部分子生命化学科

「農薬の安全性と登録制度について」

④ 2023.11.14

日本農薬学会・農薬残留分析研究会

「揮発性農薬の蒸留法と HS-GC 法との同等性検証」

⑤ 2024.2.6

一般社団法人全国植物検疫協会

「植物検疫を巡る最近の状況」

#### ウ. 研修生及び見学者の受入れ

(7) 研修生

- ① 2023年8月21日～25日：作物残留農薬分析研修（3名）
- ② 2023年10月16日～27日：農薬毒性試験に関する基礎研修（2名）
- ③ 2024年1月22日～26日：土壌・植物中動態試験に関する専門技術研修（4名）

(イ) 見学者

- ① 2023年11月8日：2023年日中技術交流会視察研修  
農薬工業会（通訳及び事務局含む12名）

エ. 委員会等への委員派遣

- ・国際毒性病理アカデミー会長【IATP】
- ・眼刺激性ガイドライン専門家委員会委員【OECD】
- ・農薬部会委員【ISO】
- ・毒性病理用語・診断基準の国際統一化計画推進委員会委員  
【日本・英国・EU・米国毒性病理学会】
- ・非臨床試験における有害作用に関する国際専門家検討委員会委員  
【日本・英国・EU・米国毒性病理学会】
- ・食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員【内閣府】
- ・食品安全委員会添加物専門調査会委員【内閣府】
- ・食品安全委員会器具・容器包装専門調査会委員【内閣府】
- ・食品安全委員会栄養成分関連添加物ワーキンググループ委員【内閣府】
- ・食品安全委員会肥料・飼料等専門調査会専門委員【内閣府】
- ・食品安全委員会農薬第三専門調査会専門委員【内閣府】
- ・薬事・食品衛生審議会化学物質安全対策部会化学物質調査会専門委員  
【厚生労働省】
- ・薬事・食品衛生審議会農薬・動物用医薬品部会臨時委員【厚生労働省】
- ・残留農薬等試験法開発事業評価会議委員【厚生労働省】
- ・「食品の規格基準（残留農薬等）に関する公開講座等の実施業務一式」に係る提案書技術審査委員会委員【厚生労働省】
- ・JaCVAM資料編纂委員会（発達神経毒性試験）委員  
【国立研究開発法人国立医薬品食品衛生研究所】
- ・難分解性・高濃縮性化学物質による高次捕食動物への毒性評価法に係る検討会  
【国立研究開発法人国立環境研究所】
- ・農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会専門委員及び生物農薬評価部会専門委員【農林水産省】
- ・農薬関係調査研究検討会委員【独立行政法人農林水産消費安全技術センター】
- ・環境省化学物質の複合影響研究班会議委員【日本エヌ・ユー・エス株式会社】

- ・環境省農薬残留対策総合調査検討会委員【株式会社エスコ】
- ・日本木材保存協会委員会委員【公益社団法人日本木材保存協会】
- ・薬剤等認定委員会委員【公益社団法人日本しろあり対策協会】

(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

ア. 事業の継続に必要なリスク管理と情報交換

(ア) 事業に関わるリスク管理の強化

事業の遂行に伴うリスク解析及び対応策をハード・ソフト両面から強化した。ハード面では、職員の労働安全衛生に関する職場環境を整備した。ソフト面では、コミュニケーションの円滑化によりリスク情報の共有化を図り、特に精神衛生面でのケア対策を施して、人的保全に努めた。また、引き続き投書箱を設置し、職員の意見を幅広く収集し、組織体制あるいは職場環境の改善に努めた。また、自然災害を含めた緊急時における対応策を定めた危機管理行動マニュアルに基づき、迅速な対応による職員の安全確保及び事業の早急な復旧・継続を図ることとした。その他、インターネット回線のセキュリティー対策を強化し、事業遂行において発生し得るリスク軽減に努めた。

(イ) 情報交換会

新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。

(ウ) 人員体制・業務分担の見直し

化学部及び毒性部の各研究室の人員体制・業務分担を受託状況に応じて適宜見直すとともに、中長期的な業務展開を視野に入れた職員のジョブローテーション制度を導入した。また、研究室間及び他部署（試験事業部・総務部・信頼性保証室）との業務協力体制を強化し、業務遂行の効率化を図り、農薬取締法の一部改正に基づく農薬の登録制度の見直しに伴う受託試験の確保、コンサルティング業務の実施及び体制整備に努めた。

(エ) 国際実験動物ケア評価認証協会（AAALAC International）の認証維持

2015年3月16日付けでAAALAC Internationalより取得した完全認証を維持すべく、動物実験委員会を中心に動物愛護・福祉に配慮した実験動物の人道的な管理・使用・取扱に関する自主管理体制整備を強化するとともに、ハード・ソフト両面での改善に努めた。また、3年に1回実施される同協会による現地査察（Site Visit）が2024年3月14～15日に実施された。この認証維持のため、今後も人的補強やハード面での投資が必要となるが、動物実験等を適正に実施するための必要な認証として捉え、継続的に取り組んでゆく方針である。

(オ) 試験データの品質管理強化及び試験業務等の効率化

化学部及び毒性部で実施される各種試験から得られるデータのダブルチェックやピアレビュー等の品質管理体制（Quality Control）を強化し、試験データの質的向上を図るとともに、動物観察など日常業務を支援するコンピュータ・システ

## 報告(1)

ムを実用化し、作業効率を高め、迅速かつ正確なデータの作出に努めた。試験事業部・総務部では、所内連絡文書等を可能な限り電子化し、事務処理能力を高め、作業の迅速化及び効率化を図った。また、各種試験における試験開始から最終報告書作成までの全行程を更に見直し、可能な限り無駄な作業を省き、試験終了のより一層の早期化を図った。これらの取り組みにより、農薬登録取得までの期間を可能な限り短縮するとともに、試験実施に伴う人件費の削減を図った。

### (カ) 施設整備計画

職員の職場環境を改善することを目的に、老朽化が著しく進行している第1及び第2実験棟増設エリアを解体撤去し、新棟に更新・集約するとともに新規事業に必要な施設整備を行う予定であったが、昨年につき、新型コロナウイルス感染症による影響により実施を中断している。今後については、受託試験の実施を最優先し、工事による影響を最小化すべく配慮した上で決定することとした。また、本年度も毒性試験受託の進捗状況により毒性試験施設整備が困難なこともあることから、化学部残留分析棟の整備を優先する計画も併せて検討した。

### (キ) 残留農薬研究所設立50周年記念式典

当研究所創業50周年記念行事を2023年11月22日、アートホテル日暮里ラングウッドにおいて開催した。(参加211名：国機関、関係団体、OB)

## 5. 従たる事務所の状況

東京事務所

所在地：東京都小平市花小金井南町一丁目12番11号（BLOSSMみさと）

## 6. 主要な借入先及び借入額

該当なし

## 7. 重要な契約に関する事項

業務連携：株式会社エスコ（2021年6月21日HP公表）

## 8. 役員会等に関する事項

### (1) 理事会

#### ア. 第122回

2023年5月30日、一般財団法人残留農薬研究所研究管理棟会議室4において開催、議案を付議し、異議なく原案どおり承認された。

第1号議案 2022年度事業報告等に関する件

第2号議案 2022年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件

第3号議案 2022年度公益目的支出計画実施報告に関する件

## 報告(1)

- 第4号議案 規程類の改正に関する件
- 第5号議案 顧問の選任に関する件
- 第6号議案 理事の月額報酬等に関する件
- 第7号議案 評議員会の招集に関する件
- 第8号議案 その他

### イ. 第123回

2024年3月26日、一般財団法人法曹会法曹会館（霞が関）において開催、議案を付議し、異議なく原案どおり承認された。

- 第1号議案 2024年度事業計画及び予算に関する件
- 第2号議案 2024年度短期借入金の借入限度額に関する件
- 第3号議案 2024年度資金運用方針に関する件
- 第4号議案 規程の一部改正に関する件
- 第5号議案 専門委員の選任に関する件
- 第6号議案 その他

### ウ. 書面による理事会

2024年3月28日、書面により提案し、異議なく原案どおり承認された。

- 第1号議案 常務理事の担当業務に関する件

## (2) 監事監査

2023年5月30日、一般財団法人残留農薬研究所研究管理棟会議室1において、2022年度事業及び決算に関する監査を受けた。

## (3) 第12回評議員会

2023年6月20日、一般財団法人法曹会法曹会館（霞が関）において開催、2022年度事業及び2022年度公益目的支出計画実施について報告した後、議案を付議し、異議なく原案どおり承認された。

- 第1号議案 2022年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件
- 第2号議案 評議員の選任に関する件

## 9. 許可、認可、承認等に関する事項

該当なし

## 10. 株式を保有している場合の概要

割当株式 株式会社エスコ A種類株式 50株



事業報告の附属明細書

1. 調査研究の成果（公益目的支出計画対象事業）

1) 論文等発表

なし

2) 学会・研究会発表

なし

報告-(1)

2. 調査研究の成果（公益目的支出計画対象事業外）

1) 論文等発表

ア. 研究所独自の事業関係

- ・石母田 誠、大山 和俊、富山 成人、児玉 芽吹  
Chemical tolerance related to the ABC transporter gene and DNA methylation in cladocera (*Daphnia magna*)  
(*Environmental toxicology*, 39: 1978-1988, 2024)
- ・宮崎 新也、藤原 千夏、小山 彩、高橋 尚史、伊藤 強、志賀 敦史、加藤 由隆、原田 孝則  
Smooth muscle hamartoma of the lungs in a Wistar Hannover rat  
(*Journal of Toxicologic Pathology*, 36: 193-198, 2023)

イ. 国からの委託事業関係 なし

ウ. 学位論文 なし

エ. 共著論文（下線部が残留農薬研究所職員）

- ・小坂 忠司、田島 均、青山 博昭  
Comparison of the sensitivity of histopathological and immunohistochemical analyses and blood hormone levels for early detection of antithyroid effects in rats treated with thyroid peroxidase inhibitors  
Hirotoshi Akane, Takeshi Toyoda, Kohei Matsushita, Tomomi Morikawa, Tadashi Kosaka, Hitoshi Tajima, Hiroaki Aoyama, Kumiko Ogawa  
(*Journal of Applied Toxicology*, DOI:10.1002/jay.4604, 2024)
- ・佐藤 旭、富山 成人、小坂 忠司、北條 仁、高橋 尚史、青山 博昭  
Prenatal test cohort of a modified rat comparative thyroid assay adding brain thyroid hormone measurements and histology but lowering group size appears able to detect disruption by sodium phenobarbital  
Kenta Minami, Akira Sato, Naruto Tomiyama, Keiko Ogata, Tadashi Kosaka, Hitoshi Hojo, Naofumi Takahashi, Hidenori Suto, Hiroaki Aoyama, Tomoya Yamada  
(*Current Research in Toxicology*, 6:100168, 2024)

オ. その他

- ・大山 和俊  
農薬登録に関わる残留試験について  
(*FFI ジャーナル*, 228: 299-306, 2023)

2) 学会・研究会発表

ア. 研究所独自の事業関係

- ・石母田 誠、大山 和俊、富山 成人、児玉 芽吹、北原 彩  
オオミジンコのカーバメート剤に対する薬剤耐性メカニズム-遺伝子発現量および DNA メチル化率の変化-  
(第 2 回環境化学物質 3 学会合同大会 (第 27 回日本環境毒性学会)、徳島、2023)
- ・石母田 誠  
水生生物における化学物質の長期影響および薬剤耐性の解明  
(令和 5 年度環境毒性学会総会、福岡、2023)
- ・石母田 誠  
特別企画 3 野外における生態毒性を捉える挑戦 趣旨説明  
(第 2 回環境化学物質 3 学会合同大会 特別企画 (第 27 回日本環境毒性学会)、徳島、2023)
- ・伊藤 強  
ラットの腎臓腫瘍  
(第 11 回日本獣医病理学専門家協会学術集会、鹿児島、2024)
- ・加藤 由隆  
ラットの松果体  
(第 43 回実験動物病理標本交見会集会参加、静岡、2024)

- ・佐藤 旭

Comparative Thyroid Assay の概要と欧米当局における位置付け  
(第 144 回日本薬学会、横浜、2024)

イ. 国からの委託事業関係 (下線部が残留農薬研究所職員)

- ・飯島 和昭、曳埜 忍、近藤 圭、矢島 智成、若曾根 佳樹

Proportionality between spraying amounts of pesticides in crop fields and their initial deposit amounts on surfaces of watermelon and muskmelon

Kazuaki Iijima, Shinobu Hikino, Kei Kondo, Tomonari Yajima, Yoshiki Wakasone, Takahiro Watanabe

(North America Chemical Residue Workshop, U.S.A, 2023)

- ・飯島 和昭、曳埜 忍、近藤 圭、矢島 智成、若曾根 佳樹

Relationship between surface properties of fruits and residue levels of pesticides by foliage pesticide applications

(North America Chemical Residue Workshop, U.S.A, 2023)

- ・小林 修一、山口 優衣、小林 大介、矢島 智成、若曾根 佳樹、飯島 和昭、大山 和俊

実くん蒸小麦およびオレンジ中の残留臭化メチル分析における各種前処理操作が分析値に与える影響

(第 46 回農薬残留分析研究会、長野、2023)

- ・近藤 圭、土橋 ひかり、飯島 和昭

農薬の付着特性を考慮した残留濃度予測モデル構築に関する研究

第 2 報：キウイにおける予測モデルの検証と応用

近藤 圭、土橋 ひかり、飯島 和昭、渡邊 敬浩

(第 49 回大会日本農薬学会、奈良、2024)

- ・土橋 ひかり、近藤圭、飯島 和昭

農薬の付着特性を考慮した残留濃度予測モデル構築に関する研究

第 1 報：形態調査と噴霧実験によるキウイの農薬付着特性の解析

土橋 ひかり、近藤圭、飯島 和昭、渡邊 敬浩

(第 49 回大会日本農薬学会、奈良、2024)

- ・曳埜 忍、島田 京佳、矢島 智成、飯島 和昭

残留農薬分析における試料均質性の指標の検討～圃場で農薬散布して栽培したトマトを用いた調査～

曳埜 忍、島田 京佳、矢島 智成、飯島 和昭、志田 静夏

(第 119 回日本食品衛生学会、東京、2023)

- ・矢島 智成、小林 修一、山口 優衣、小林 大介、若曾 根佳樹、飯島 和昭

ヨウ化メチルくん蒸した農産品における残留性調査

矢島 智成、小林 修一、山口 優衣、小林 大介、若曾 根佳樹、飯島 和昭、高橋 正和、町田 真生、相馬 幸博

(第 119 回日本食品衛生学会、東京、2023)

- ・矢島 智成

実くん蒸農作物による慣行分析法と HS-GC を用いた簡易迅速分析法との同等性検証

(第 46 回農薬残留分析研究会 難分析セミナー、長野、2023)

ウ. 共同研究 (下線部が残留農薬研究所職員)

- ・佐藤 旭、高橋 尚史、青山 博昭

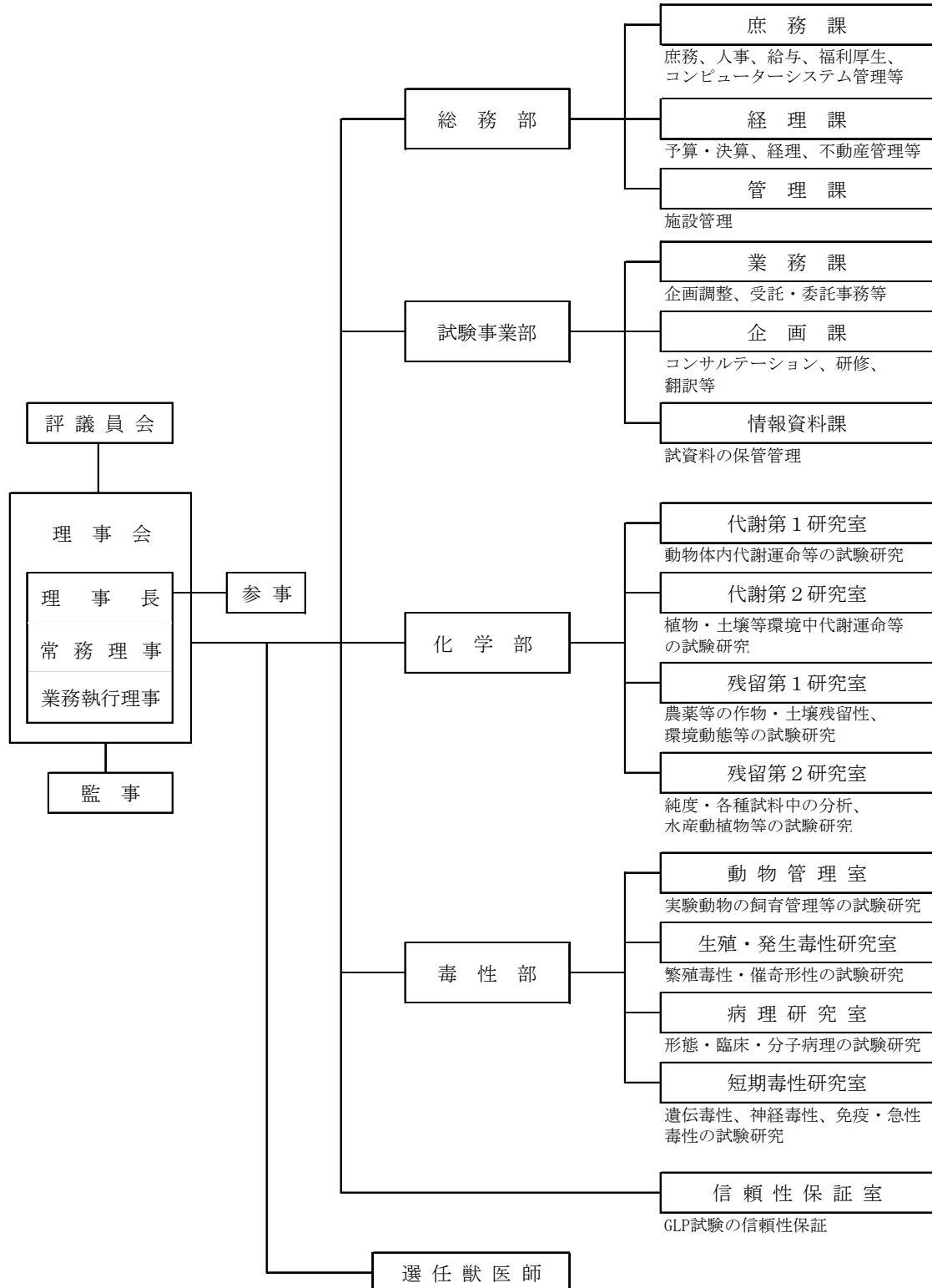
甲状腺ホルモンかく乱作用のスクリーニング試験における Heterotopia 検索の有用性検討：投与期間と検査時期の適正検証

緒方敬子、南健太、須藤英典、前田圭子、串田昌彦、江口あゆみ、佐藤旭、高橋尚史、青山博昭、浅野 敬之、山田 智也

(第 40 回日本毒性病理学会、東京、2023)

3. 組織機構図

(2024年3月31日)



## 報告一(1)

### 4. 役員等の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

- (1) 役員 of 重要な兼職先としては、牧伸一常務理事が業務連携先である株式会社エスコの取締役（非常勤）に就任している。
- (2) 評議員の選任に際しては、他の同一の団体(公益法人を除く)の役員及び使用人の合計数が評議員総数の3分の1を超えないことが求められている(定款第11条第2項第2号要約)ため、他の同一団体の評議員が評議員総数13名の3分の1を超えていない。